【事業実績】

① 日本美術専門家会議

第 1 回

日時：令和元年 9 月 5 日（木）：～：

会場：京都国立博物館　平成知新館会議室

出席者：9 名（海外 4 名、国内 5 名）

第 2 回

日時：令和 2 年 2 月 2 日（日）：～：

会場：東京国立博物館　平成館第一会議室

出席者：42 名（海外 27 名、国内 4 名、国立文化財機構 11 名）

（北米）

ローラ・アレン	サンフランシスコ・アジア美術館
ロジーナ・バックランド	ロイヤルオンタリオ博物館
フランク・フェルテンズ	フリーア美術館
アンドレアス・マークス	ミネアポリス美術館
アン・ニシムラ・モース	ボストン美術館
リアノン・パジェット	ジョン・アンド・メーブル・リングリング・ミュージアム・オブ・アート
アーロン・リオ	メトロポリタン美術館
スティーブン・サレル	ホノルル美術館
篠田 弥生	ネルソン・アトキンス美術館
シネード・ヴィルバー	クリーブランド美術館

（欧州）

カーウィン・チェン	スコットランド国立博物館
ティム・クラーク	大英博物館
ルパート・フォークナー	ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館
メンノ・フィツキ	アムステルダム国立美術館
グレッグ・アーヴィン	ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館
ダーン・コック	国立民族学博物館（ライデン）
ナデジャ・マイコワ	ピョートル大帝記念人類学・民族学博物館（クンストカメラ）
マニュエラ・モスカティエッロ	チェルヌスキ美術館　日本美術の担当者

ケイト・ニューハム	ブリストル市立美術館
メアリー・レッドファーン	チェスター・ビーティ
ウィブケ・シュラーペ	ハンブルク美術工芸博物館
アルバン・フォン・ストックハウゼン	ベルン歴史博物館
カーン・トリン	リートベルク美術館
エリザヴェータ・ヴェニアン	プーシキン美術館
バス・フェルバーク	東亜美術館（ケルン）
コーラ・ビュルメル	ドレスデン博物館
アイヌーラ・ユスーポワ	プーシキン美術館

（日本）

梶山 博史	中之島香雪美術館
古川 攝一	大和文華館
安河内幸絵	サントリー美術館
伊藤千尋	永青文庫

（国立文化財機構）

河野 一隆	東京国立博物館
今井 敦	東京国立博物館
鬼頭 智美	東京国立博物館
栗原 祐司	京都国立博物館
降矢 哲男	京都国立博物館
マリサ・リンネ	京都国立博物館
ヘルフェンベルガー・ファビエン	京都国立博物館
メアリー・ルイン	奈良国立博物館
桑原 有寿子	九州国立博物館
山梨 絵美子	東京文化財研究所
江村 知子	東京文化財研究所
米沢 玲	東京文化財研究所

内容：北米・欧州・日本の日本美術学芸員が業務上で直面する問題についての討論および情報交換

②国際シンポジウム

テーマ：「展示室で語る『日本美術』」

日時：令和２年２月１日（土）：～：

会場：東京国立博物館　平成館大講堂

来場者数：314 名

内容：発表およびパネルディスカッション

基調講演　吉田憲司　国立民族学博物館長

「日本美術はいかに語られてきたか？　―欧米の美術館・博物館の中の日本―」

発表１　フランク・フェルテンス　フリーア美術館日本美術担当学芸員

「アメリカの国立アジア美術館―フリーア美術館の日本絵画コレクションの伝統と発展について」

発表２　スティーブン・サレル ホノルル美術館　ロバート・F.ランジ財団日本美術キュレーター

「木目に反して：日本版画への非伝統的な探索、解釈、そしてその先にあるもの」

発表３　カーン・トリン チューリッヒ・リートベルク美術館　日本・韓国美術担当学芸員

「海外における日本美術の特別展企画」

発表４　松嶋雅人　文化財活用センター企画担当課長/東京国立博物館

「「マルセル・デュシャンと日本美術」展における日本美術の過去に例のないプレゼンテーション」

パネルディスカッション

モデレーター　鬼頭智美　東京国立博物館　学芸企画部上席研究員

③日本美術取り扱いワークショップ

日時：令和年 2 月 3 日（月）～6 日（木）

会場：東京国立博物館、東京文化財研究所、京都国立博物館

東福寺、大徳寺 龍光院、大西清右衛門美術館、岡墨光堂株式会社、千總文化研究所

参加者：30 名

（北米）

グウェン・アダムス　　ロイヤルオンタリオ博物館

ローラ・アレン　サンフランシスコ・アジア美術館
ロジーナ・バックランド　ロイヤルオンタリオ博物館
フランク・フェルテンズ　フリーア美術館
ホリス・グッダール　ロサンゼルス・カウンティ美術館
アンドレアス・マークス　ミネアポリス美術館
アン・ニシムラ・モース　ボストン美術館
リアノン・パジェット　ジョン・アンド・メーブル・リングリング・ミュージアム・オブ・アート
アーロン・リオ　メトロポリタン美術館
スティーブン・サレル　ホノルル美術館
篠田 弥生　ネルソン・アトキンス美術館
シネード・ヴィルバー　クリーブランド美術館

(欧州)
カーウィン・チェン　スコットランド国立博物館
ティム・クラーク　大英博物館
ルパート・フォークナー　ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館
メンノ・フィツキ　アムステルダム国立美術館　学芸員(アジア美術)
グレッグ・アーヴィン　ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館
ダーン・コック　国立民族学博物館（ライデン）　学芸員（日本・韓国）
ナデジャ・マイコワ　ピョートル大帝記念人類学民族学博物館（クンストカメラ）
マニュエラ・モスカティエッロ　チェルヌスキ美術館
ケイト・ニューハム　ブリストル市立美術館
メアリー・レッドファーン　チェスター・ビーティ
ウィブケ・シュラーペ　ハンブルク美術工芸博物館
アルバン・フォン・ストックハウゼン　ベルン歴史博物館
カーン・トリン　リートベルク美術館
エリザヴェータ・ヴェニアン　プーシキン美術館
バス・フェルバーク　東亜美術館（ケルン）
ミオ・ワキタ-エリス　オーストリア応用美術館
コーラ・ビュルメル　ドレスデン博物館
アイヌーラ・ユスーポワ　プーシキン美術館

＜参加者からの声＞

すべてのプログラムを終えた後に開催された意見交換会では、ハンドラー等のキュレーター以外の専門家や若手など幅広い参加者を受け入れていることや、日本美術の背景となる日本文化を幅広い分野で体験できるプログラムを評価する声が多く上がった。日本美術の取り扱いについてキュレーターだけでなく、ハンドラーやデザイナーなど日本美術の展示にかかわる幅広い専門家に対しての研修について依然として高いニーズがあり、こうしたプログラムを継続して取り組んでいくことが重要であるという意見も見受けられた。

また、この事業の結果として生まれたネットワークにより、海外における日本美術展の進行がスムーズとなり、また海外の日本美術専門家同士の交流も盛んになっている。この交流をきっかけに新たな日本美術の展覧会の企画も立ち

上がってきており、今後とも海外における日本美術のプレゼンスをさらに確固たるものにしていくうえでも本事業の重要性は高まって来ていると思われる。

④海外日本美術現地調査
第 1 回
期間：12 月 3 日～4 日
参加者：呉暁瑾、Marta Pinto-Llorca（以上、シアトル美術館）、河野一隆、河野正訓、山本亮（以上、東京国立博物館）、大澤正吾（奈良文化財研究所）
調査先：アジア美術館（シアトル美術館分館）
調査対象：日本考古 25 件

第 2 回
期間：2 月 18 日～21 日
参加者：呉暁瑾、Marta Pinto-Llorca（以上、シアトル美術館）、市元塁、飯田茂雄（以上、東京国立博物館）
調査先：アジア美術館（シアトル美術館分館）
調査対象：日本考古9件、東洋考古1件

東京国立博物館蔵の「国宝　挂甲の武人」と類似する作品については、2019 年度に行われた本格修理の解体によってはじめて解明されたさまざまな知見をもとに、製作工人の技法のくせや胎土・色調、埋没環境から生じる変化などについて詳細に検討した。その結果、「国宝　挂甲の武人」ときわめて近い時期と工房で製作されたと推定されるにいたった。さらに、来歴調査の結果、修理についても当館所蔵品と共通した環境下で行われたことが明らかとなった。今まで、シアトル・アジア美術館蔵品については、写真しか公開されておらず、つぶさに観察した研究結果がなかったため、日本の学界ではさまざまな見解が出されていた。今回の熟覧調査によって、はじめて実証的な考古学的データを入手することが出来た。その他の作品調査についても、日本の学界には知られていない新発見や新知見を得ることが出来た。